

## 5 第5学年の取組

### (1) 実践内容「ふるさと甚目寺～われら産業調査隊～」

#### ① はじめに

5年生は、総合的な学習「われら産業調査隊」と題して、ふるさとの甚目寺地区にある産業について学習する。商業・工業・農業の3部に分け、それぞれの産業の特色や生産物の特徴について調べ学習を行った。「なぜ甚目寺地域で伝統産業が発展したのか」「地域の商店街で生産されている製品は学校や地域とどのようなかかわりがあるのか」など、様々な疑問をもつことで一人一人の興味関心を深めた。また、併せて、働く人々の考えや思いについても道徳教材と関連付けて考えた。出前授業や夏の取材活動を行い、実際に、見て聞いて触れることにより感じていくふるさとの伝統産業の歴史やよさ、今後について学習を深めた。その際に、コミュニケーションスキルの活用を通して人とかかわりを大切に、国語科との連携を図ってESD活動を進めた。また、授業では思考ツールを使って授業の焦点化・視覚化を進めていった。

#### ② 「ふるさと甚目寺～われら産業調査隊～」

##### ア 総合的な学習の時間

「甚目寺の伝統産業を知ろう」(5月)

甚目寺の「産業を調べよう」では、甚目寺の伝統産業である刷毛について出前授業を行った。刷毛組合から講師を招き、刷毛の作り方、歴史、直面する課題などの話を学年全員で聞くことができた。刷毛の種類や用法、歴史について分かりやすい説明をしていただき、地元の伝統産業である刷毛について興味をもつ児童が多くみられた。



【伝統産業刷毛出前授業】

##### イ 道徳の時間

「郷土の偉人・後世に伝える伝統の技」(6月)

出前授業の後、刷毛作りの「人や人の思い」にせまる道徳の授業を行った。「後世に伝える伝統の技」として、甚目寺の刷毛作りの創始者である山崎政三郎さんの思い、また現在刷毛作りに取り組んでいる方々の思いについて考えることができた。

##### ウ 総合的な学習の時間

「甚目寺の主な産業を知ろう 甚目寺の産業を調べるにあたって」(7月)

「郷土の偉人・後世に伝える伝統の技」の後、甚目寺の主な産業を知るために、刷毛産業以外にどんな産業があるのかを調べた。産業を調べるにあたり、自分たちで興味や関心のあるテーマを選び、インターネットやパンフレットなどを利用して仕事内容、歴史、特徴について調べることができた。

##### エ 総合的な学習の時間

「甚目寺の産業を知ろう 夏の見学・取材」(7・8・9月)

商業・工業・農業に分かれて行う夏の取材活動では、「刷毛作り」のように「見て、聞いて、触れて、感じて」、そして「人の思い」についても触れることを中心に取材活動を行った。日頃、目にすることのできない工場や和菓子作りを体験させていただいたりするなど、五感を使って、取材活動を行うことができた。



【自動車工場の見学】



【小松菜の栽培】



【和菓子作り体験】

## オ 道徳の授業

「モノづくりと人」 豊田喜一郎・佐藤工業（11月）

甚目寺の産業についての取材活動のまとめを行う中で、取材後に道徳の授業を行った。具体的には「モノづくり」をテーマにE S D活動と道徳を連携した授業を行った。社会科で自動車産業について学習する中、道徳「ひびけエンジン」を題材に「国産エンジン開発」について、思考ツールを用いて学び合った。現在では知らない人がいないほど巨大企業となったトヨタ自動車ではあるが、最初に自動車産業に取り組んだ豊田喜一郎は、苦労に苦労を重ね国産自動車の開発を行ったことを児童に捉えさせた。また、トヨタ自動車の創立時から地元の佐藤工業が協力関係にあったことを知らせ、豊田喜一郎と地域の工場の熱い思いが、トヨタ自動車の発展につながっていったことにも焦点を当て授業を展開した。

この授業の後、児童は社会見学でトヨタ産業技術記念館を訪問し、自動車館に展示してある創業当時のエンジンの試作を見学し、豊田喜一郎たちの苦労を実際目で確かめることができた。

### ③ E S D道徳 主題「モノづくりと人」（希望と勇気、不撓不屈）

#### ア 導入の様子

夏に行った取材活動の中で訪問した佐藤工業を思い出させ、甚目寺地区に世界で通用する技術をもつ企業があることを確認した。また、エンジンの中に佐藤工業で作られたバルブボデーが入っていることを写真で確認し、実物のバルブボデーを提示した。エンジンなど実際に複雑な構造でなかなかイメージを浮かべることは難しいが、佐藤工業の協力により実際に実物を見せてもらったり、触れさせてもらったりすることで児童の興味関心が高まり、大変効果的であった。特に板金に細かい穴がきちんと開けられているのを見て、その技術力の高さを児童は認識できたようであった。

#### イ 展開の様子

佐藤工業の創業当時から、世界トップクラスの穴あけ技術をもつに至るまでの経緯を綴った自作資料を読み、佐藤工業の人たちの努力をじっくりと読み込んでいった。文章を読みながら努力に関するとこに線を引くことにより、どの児童もしっかり資料の内容が読み取れた。特に0.68mmの超精密穴をあけることがどれほど大変だったのかを想像しながら読んでいくことで、人々の心の葛藤を把握することができた。また、こうした高度な技術をもつ企業が甚目寺にあるということが、児童の心に残ったようであった。

資料の「必ず成功してみせる」という部分と「もしかしたらできないかもしれない」という部分に特に着目し、開発に困難を極めるバルブボデーを完成させるまでに、働く人たちはどのような気持ちで取り組んでいたのかについて、考えを深めていった。そこで児童が付箋で書いた内容をより分かりやすくするために同心円チャートを使い、高め合い活動を行った。児童は、一人一人の意見を大切にし、お互いの意見をしっかりと聞きながら、話し合いを深めていった。一人一人の意見を書いた後、グループの中で、付箋に書かれた思いを話し合わせ、意見をまとめて一つ内側の円「働く人の心の中にあった思い」に貼らせた。チャートの使い方やプラスやマイナスの気持ちを具体的に例示することにより、意見を出しやすい雰囲気を作っていた。

こうした話し合い活動を重ね、意見の絞り込みを行っていった。様々な困難をみんなの協力で乗り越え、ついに高度な技術の必要なバルブボデーを完成させることができたのは、佐藤工業で働く人たちのどのような強い思いがあったのか、「働く人を支えていた思い」に焦点を当てて、チャートの中心の円に付箋を貼らせていった。このような話し合い活動を経て子どもたちは、佐藤工業の人々の熱い思いと努力が理解できたようであった。「仲間と協力することの大切さ」「あきらめない心」など、モノづくりへのこだわりや仕事への誇りなど働く人の思いに迫っていくことができた。また、こうしたすばらしい人々が働いている工場があることも地域の誇りであること感じられたようであった。

### ④ E S D国語科 「すいせんします」（本時3／6）

本単元は、事物や人物を説得力をもたせて、推薦しようというという単元である。この単元では、夏の取材活動や総合学習発表会に向けて学習してきた甚目寺の産業のよさを他の学年や地域

の人々に推薦することができると考え、2月に行われる「じもさん朝市」の出店を目標に本単元を行った。第1時では、取材活動でのメモや総合学習発表会の資料をふり返し、甚目寺の産業を推薦するために必要な事柄に気付き、話したり聞いたりしながら伝えたい内容を確認した。第2時では、伝える相手や目的を明確にし、目的に照らして必要な条件は何かを考え、推薦する理由を書き出した。第3時では、前時で書き出した推薦する理由をもとに「初め」、「中」、「終わり」の構成を意識してスピーチメモを作成した。第4時では、書き言葉と話し言葉の働きや違いに着目し、スピーチ原稿を書いた。第5時では、原稿をもとに適切な言葉遣い、声の強弱・速さ・間の取り方など意識してスピーチの練習をした。第6時では、クラスでの発表会を行い、互いに気付いたことを伝え合った。

#### ア 導入の様子

第3時では、前時で書き出した推薦する理由を付箋にまとめた。そして、取材先ごとのグループで確認し合い、スピーチの中心となる内容を決めた。

#### イ 展開の様子

「初め」、「中」、「終わり」というスピーチの構成を確認し、スピーチメモの作成に取りかかった。「初め」では、推薦する企業やお店、商品を明らかにし、どのような物を作ったり、売ったりしているのかということを紹介した。「中」では、推薦する理由と具体例をまとめた。「終わり」では、推薦する理由をもとに自分の推薦する企業やお店、商品の良さを紹介した。その後は、このメモをもとに原稿を作成し、「じもさん朝市」に向けて、他の学年や地域の人に甚目寺の産業のよさを伝える方法も考えながら、朝市参加への意欲を高めていった。

#### ⑤ その後の活動

甚目寺の産業を応援しよう「じもさん朝市」（2月）

毎月12日に開催される「甚目寺観音てづくり朝市」を甚目寺小の体育館で実施した。当日は大根やキンカン、ミカンなど学校で作った物や地元の方から提供された農産物を中心に販売した。朝市に向けて、児童は夏休みに取材活動で学習したことを中心に、地元のよさをPRできるように工夫してB紙にまとめたり、チラシや新聞を作ったりして異学年に紹介した。また、地域の方と温かい交流ができるように、言葉遣いや受け答えを上手にできるように各グループで話し合いを重ね、当日は地元の方々とのやりとりを楽しみながら朝市を開くことができた。

#### (2) 実践の成果と課題

郷土で働く人々を取り上げ自作資料を教材化することは、児童に親しみを感じさせ、目指す道徳的価値に対して共感しやすく、より主体的に考えさせることができた。また、高め合い活動を展開することによって、自分自身のことを深く見つめ、自分と他者の考えを相互に関連付けて考えさせることができた。各教科の授業において、視覚化・焦点化に努めたことにより、どの児童も課題を的確に捉えることができた。思考ツールを用いたことは、グループでの話し合い活動に非常に有効であり、話し合いを潤滑に行うことができた。自作資料の開発や地域にある素材の資料化については、今後も継続していく必要がある。生きた教材である自作資料は企業の努力の発展とともに展開していかななくてはならない。そして、児童が活発に意見交換し、ねらいにせまった深い話し合いを行うためには、「話す・聞く・書く・読む」といった土台が必要であり、その基礎を日頃からつけておかなければならない。コミュニケーションスキルを高めていくために各教科とESDの活動をつなげることで、話し合い活動をさらに高めていくことができると考える。一人一人の意見を尊重し合うことができるよう、さらに活動を進めていきたい。



【推薦する理由のまとめ】



【構成に注意しての  
スピーチメモの作成】